

県内で捕獲されたチャネルキャットフィッシュの食性

臼杵 崇広

1. 目的

チャネルキャットフィッシュの基礎的な知見を集積するため、県内で捕獲された本種の食性を調べた。

2. 方法

県内で平成24年5月7日から平成29年1月29日までに捕獲されたチャネルキャットフィッシュのうち瀬田川で捕獲された個体69尾（標準体長9.0～52.8cm）、琵琶湖で捕獲された個体10尾（標準体長21.0～48.2cm）について10cm間隔の体長階級ごとの胃内容物（写真1）の重量百分率を調べた。

3. 結果

瀬田川で捕獲された個体のうち、空胃個体は15尾、空胃率は21.7%であった。体長10～20cm(N=2)では、甲殻類が98.2%を占めた（図1）。体長20～50cmのいずれの階級でも同定不能な消化物等の割合が高かったもののそれ以外では甲殻類の割合は10.3～19.8%と比較的高く、小型魚類の占める割合は体長20～30cm(N=10)で2.9%、同30～40cm(N=23)で10.4%、同40～50cm(N=15)で22.9%と体長階級が上がるほど高くなった。体長50～60cm(N=4)では糸状藻類の割合が69.7%と高く、他に大型魚の死骸を食べた際に摂取されると考えられる鱗や甲殻類などが含まれている一方、小型魚類が含まれていなかったことから他の体長階級と比較してより遊泳力の低い底生性の餌を主体に食べていると考えられた。

琵琶湖で捕獲された個体のうち、空胃個体は2尾、空胃率は20.0%であった。体長20～30cm(N=3)では、同定不能な消化物等の割合が高く、甲殻類の割合は16.4%、昆虫は0.8%であった。体長30～40cm(N=4)では、貝類の割合が39.5%と高く、次いで植物が19.4%、小型魚類が11.9%、

昆虫が10.9%であった。体長40～50cm(N=1)では、胃内容物の同定はできなかった。

琵琶湖捕獲個体の胃内容物については、調査個体が少ないため、今後さらにデータを蓄積していく必要がある。



写真1 瀬田川捕獲個体の胃内容物

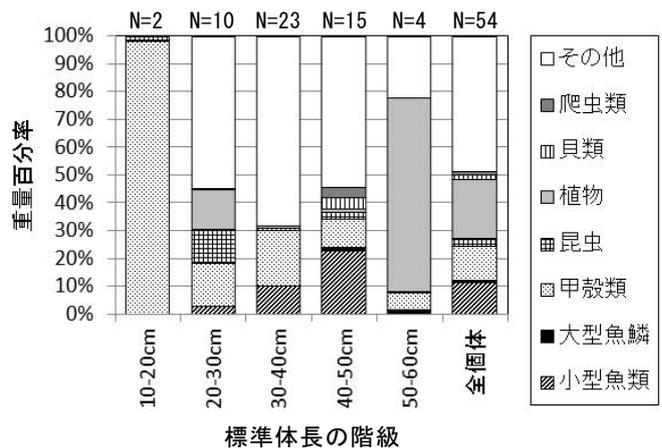


図1 瀬田川捕獲個体の胃内容物重量百分率

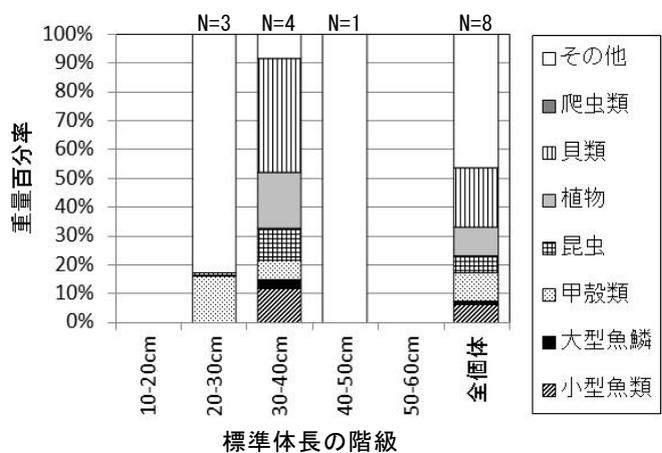


図2 琵琶湖捕獲個体の胃内容物重量百分率